

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700026		
法人名	社会福祉法人 香寿会		
事業所名	グループホームしいの木荘		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区森61番地1		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のもとで自分のペースで生活できることを理念を掲げて提供するように努めています。家族と職員との信頼関係を深める為、話し合いの場を多く持つ心がけている。一人ひとりのご利用者に添った役割をもってもらうことで、達成感の喜びを感じていただけるよう支援し運営委員会開催時、各委員の協力を頂き、地域交流を深めていくように努めています。特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス等を隣地に運営しており、行事や職員研修回りを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念に基づく運営・「家庭的な生活環境を提供します」「残存能力を活かした生活の推進を図ります」「人としての尊厳を守り、『安心』『安全』な生活を提供します」を事業所の理念とし、食事や日々の生活で生じる様々な事柄に対し、入居者個々人の強み・得意な部分を出し合い、職員の何気ないサポートに支えられながら共同生活を楽しんでおられる。②運営主体の他サービス事業所との連携・同一敷地内には、介護老人福祉施設、通所介護事業所、軽費老人ホームが併設されており、行事(焼き芋、流しそうめん、ハートフルフェスタ等)や職員研修、健康管理面・緊急時・災害時の避難訓練等の協力体制、地域交流等、法人のスケールを有効に活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気のもとで自分のペースで生活できることを理念として、管理者と職員は共有して地域で生活していけるように実践している。	「家庭的な生活環境」「その人らしい生活の推進」「尊厳を護り、安心・安全な生活」を事業所運営の柱とし、日々の支援の中でその実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の祭りや近くのスーパーマーケット等に買い物ツアーで出かけたり、また施設主催の夏祭り等に地域の方を招待して、地域の方々と交流できるように努めている。	近隣散歩時に地域の方と会話を楽しんだり、地域祭りへ参加したり多くのボランティアに協力いただいたりと交流を図っている。また、トライアルウィークを受入れ地域の一員としての役割も担っている。	地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を更に勘案されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事等で地域の方々と交流した時など、その都度積極的に認知症についての理解をしていただくように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催して、ご入居者の現況、サービスの提供状況の報告、日々の活動報告を行い、出席者から率直な意見を聞いて、事業所内で話し合いサービスの向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の現況（入居者、職員、リスクマネジメント、イベント等）報告に加え、参加者との意見・要望等を伺い、地域における事業所の在り方を検討しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議等に可能な限り出席し、必要に応じて町担当者に連絡を取り、情報を得ている。また、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席している。	月例の地域ケア会議に出席し、行政との連携を深めている。地域包括支援センターの職員には色々な面で力を借りている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	都度、職員全員が身体拘束をしないように話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の弊害を職員が理解・共有できるように職員会議等で事例を持ち寄り検討し、拘束等のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時、職員全員に虐待の防止に努めるように伝えている。職員自身のストレスも早めに気づき、解消するように話している。	職員会議等で「不適切なケア」を職員相互に検討し合い、虐待へと繋がらないよう取り組んでいる。職員のメンタルヘルスにも注力しコミュニケーション不足が生じない様留意している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居しておられる方々には、制度を利用されている方はおられないが、今後制度を利用される方が入居されるかもわからないので学ぶ機会を持って、いつでも支援できるよう準備をしている。	全職員が制度について理解・共有し、認知症高齢者支援策の一つとして活用できるよう研修を計画している。	権利擁護の所管である地域包括支援センターに協力を仰ぎ、権利擁護の制度から具体的事例等の検討までの一貫した学習会等を開催されてはいかがでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時の面接や制度が変わった時は管理者がご家族一人一人に直接会って説明をして納得して頂いている。	契約に当たり事業所で「できる事、難しい事」を明確にし、入居後に不安や疑問が残らないよう丁寧に説明し納得いただいている。また、本人との面談も実施している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族参加の運営推進会議、行事、または面会の際に要望や意見を聞いて職員会議等で話し合い運営に活かしている。	運営推進会議や来訪時(面会、行事等)に意見・要望を聴き取っている。医療面、衛生面での要望には即時対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議に出席し、職員の意見、提案を聞いている。また、定期的に職員一人一人と面談する機会を設けている。	職員会議や運営委員会(月1回)の場で職員の意見を吸い上げる様にしており、理事長との個別面談も意見具申の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は都度職員の意見や要望を聞いて、内容や思いを話し合っただけ希望に添えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内、外部研修への参加の呼びかけを行い、職員一人一人のケアの向上を図っている。資格取得についても勉強会を開いたりサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の会議に出席して情報収集している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、ご本人の状態を把握しご家族に生活歴を記入して頂き、自宅での生活状態に近い対応を行う。入居後は、ご本人が困っている事や要望を家族と連絡をとりながら対応している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、ご家族が困っていることや要望等を聞くと共に、都度の不安や要望にも耳を傾け、ご家族の立場になって考えていくようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の時にご本人、ご家族より、日常生活の様子、趣味、特技、嗜好等を確実に聞き取り、アセスメント表を作成。今必要なサービスは何か、必要なサービスが出来ているか等を確認しながら対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者ができることは手伝いをしてもらい、共に生活をしている雰囲気大切にコミュニケーションを図るように心がけている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や都度の電話連絡等で本人の様子を家族へ報告。心身の状態の変化を共有し一緒にサポートしていけるよう努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外泊される方には、家族と連携を図りスムーズに対応できるように支援している。都度の知人等の面会を常時受け入れ顔馴染みの方や友人と交流を続けている方もいる。	併設の事業所利用者に顔なじみの方がおられ、そちらで楽しい時間を過ごされたり、知人・友人が来訪され一緒に時を過ごしたり、毎月外泊される方(家族の連携)もおられる。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者に生活の中で本人が出来る範囲で役割を持ってもらい、お互いが支えあい、関わりを持ってもらえるように支援している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族等に電話連絡等で様子を伺い、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らしてもらえるよう、ご入居者の意向を聞き対応。日々のコミュニケーションの中からも本人の気持ちを汲み取れるように一对一の対応を心がけている。	居室担当者や計画作成担当者が、入居前の生活歴情報や本人との会話や仕草・表情から思いや意向を汲み取り、連絡ノートや申し送りによりその情報を共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に家族に生活歴をお聞きし、状況表に記入している。面会時に本人の情報を収集し、職員全体で共有できるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、その時の状態で声かけをし、ご本人の要望を聞き会議等で職員間の情報交換をして良い対応をするように話し合いをしている。ケース記録以外に連絡帳等に記入し、本人や家族の話したこと等も記録している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、または電話等でその都度家族の意向を伺い、ご本人の意向と合わせて、毎月職員会議等で見直しをしている。	本人の思い・意向に家族の要望等並びに居室担当者等の情報を踏まえ、介護計画を作成している。入居者の現況確認は月例の職員会議で行っている。	介護計画を有用性の高いものとするため現行計画と入居者の現況との整合チェック(モニタリング)を居室担当者と共に月次で実施されてはいかがでしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の職員会議で、ご入居者の様子や対応を話し合いケース記録に詳しく全職員が日常の関わりを記入している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ご本人の状態により、ご家族に電話等で連絡を取り、急病等の時は受診の支援を行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長を通じて、地域行事の祭り等に参加させてもらったり、ボランティアの方と楽しんで頂く機会を定期的にもっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院の主治医へ定期的を受診して健康管理に努めている。ご家族に協力して頂き、入居前からのかかりつけ医に通院や眼科、歯科受診も行っている。	協力病院の主治医(内科)へ定期的を受診している。入居前からのかかりつけ医(内科)への受診は家族にお願いしている。眼科、歯科、地域包括支援センターの理学療法士の協力も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて健康管理に関することは、併設の特養看護職員に相談して対応の指導を受けている。ご入居者の急変時等は相談して受診等の判断に繋げている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前にはご本人の様子の詳しい情報を病院に伝えるようにしている。入院中は病院関係者、ご家族と連絡を取り合って情報の共有を図っている。退院前には、病院のケアカンファレンスに出席して状態等を確認している。	入院中は、入居者の不安感を軽減するため職員も面会に出向き、病院とは連携を密にして(MSWとの情報共有)退院後の生活に不具合が生じない様図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、ご家族に当事業所で出来ることを説明している。ご家族、主治医、職員間で話し合い連携して、ご入居者やご家族の要望に沿ったケアを行っている。	入居者の状態変化に応じて医師、家族等の意見を踏まえ本人にとって望ましいケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やAEDを用いた救命講習等の外部講師による研修、また外部で行われる様々な研修へ可能な限り参加して実践力を養っている。マニュアルを作成し、急変時に備えて日々確認している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎年行い、災害時は併設施設からの協力体制を設けている。運営推進会議等を通じて地域の方にも災害時の協力をお願いしている。	併設事業所との共同訓練も含め年3回訓練(日中常、夜間常想定)を実施している。災害が起こった際には地域の消防団に協力いただくよう依頼している。	今後の地域ぐるみの災害対策についての協働に期待をします。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	都度、一人一人の自尊心を傷つけないよう配慮して声かけを行い、プライバシーや羞恥心も周囲の方々の状況を見ながら、個々に合った言葉かけや対応を行い、安心、安全に過ごせるよう努めている。	自尊心・羞恥心への配慮と個人情報の保護を基本に、本人にとって好ましい声かけや役割を担っていただきながら、安心・安全に過ごせるようはかっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、声かけは分かりやすく説明して、選択や自己決定がしやすいように行っている。言葉かけも都度ご入居者個々に合わせてわかりやすい言葉を選んで行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせてだけでなく、ご入居者のその日、その時の気分や体調等を十分に把握して、その気持ちを大切に、食事や入浴等もご本人の希望に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は、一人一人に好きなものを選んで頂いているが、時々アドバイスを求められた時は、季節、本人の希望に沿ったものを選んで頂いている。美容については清潔に気を付けて自由に行ってもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者個々の出来る能力に合わせて、食事の準備や片付けを行っている。時々ご入居者の方々から希望献立を聞き、ご入居者の方々が職員の支援を受けて調理を行い、会話をしながら食事を楽しんでいる。	入居者の希望も聴きながら、食事が楽しみなものとなるよう調理、盛付け、配膳・下膳、片付け等得意な部分を職員と協働している。イベント食(そうめん流しや焼き芋)も楽しんでおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスがとれるよう栄養士が献立を作成している。日々の摂取量をチェックして、摂取量が少ないご入居者には、本人の好物等で食事内容を変更して摂取量が確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には声かけ、見守りにより嗽をおこなっている。毎食後には、声かけをして、義歯を外して頂き、自身で出来る方は自身で磨き、介助の必要なご入居者には義歯を預かり洗浄して清潔を確保している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、各ご入居者の排泄パターンを把握して、時間的に配慮してトイレ誘導を行っている。自身でトイレに行ける方もトイレ内で排泄用品の確認を行い、トイレでの排泄にむけた支援に努めている。	入居者個々人の排泄パターンやそのサインを把握し、トイレでの排泄が可能となるよう支援している。また、ご本人の希望で、夜間帯は安心パンツ利用の方もおられる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の野菜を多く食べられるように工夫している。起床時個々に応じて、お茶、牛乳等を飲用して頂くように対応している。またトイレで腹部マッサージを行い、下剤の服用なく自然排便で対応している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はご入居者個々のペースでゆったりと楽しめるように対応している。声かけに強く拒否する時は、時間をあけて無理のないよう行っている。その時々々の気分や体調により気持ちよく入浴出来るよう努めている。	浴槽は、個浴であるが銭湯のような石造りとなっている。週2回入浴を基本とし、ゆっくりと入浴していただけるよう対応し、季節湯(菖蒲湯、柚子湯等)も楽しんでもらっている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床時は一人一人の生活スタイルや個々のペースに合わせている。日中は希望によりベッドで休みたい方は、自由に居室のベッドで横になって頂き自由に過ごして頂けるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の個々のファイルへ薬剤情報を綴じ、全職員が確認できるようにしている。服薬時は飲み込むまで見守り、確認するようにしている。ご入居者の体調を見ながら主治医と相談し服薬の変更等伺っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ等ご入居者の能力に応じて役割を持って頂き、無理のないよう声かけを行っている。役割を持つことで生きがいにつながるように支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩を行い、買い物、桜の花見、地域のレストランに飲食等の外出。都度ご家族と受診を兼ねて外出し食事をして帰ってこられる方もいる。	事業所周辺への散歩やスーパーへの買い物、喫茶店でのコーヒー・ケーキタイム、地域見聞の外出(海の文化館)や紅葉狩り、花見(桜等)も入居者の楽しみとなっている。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後も、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけた時、ご家族と一緒にの方は、ご家族に直接本人がお金を支払えるようお願いしている。職員が付き添っている時は、ご入居者の方にお金を渡して直接支払い、おつりを受け取るように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者が要望してきた時は、手紙、電話、年賀状等本人の要望通り、自由にご家族と連絡がとれるように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井から、四季を通して光、風、雨、雪模様を感じ、テーブル等には季節毎の花等を飾り、また、テレビ、BGMの音も必要以上に出ないようにして、ご入居者の方が快適に穏やかに過ごせるように配慮している。	天窓が設置され、採光や雨、雪等により、時間や季節の移り変わりを感じることができるフロアとなっている。プランターでのピーマンやトマト作りも生活に潤いを与えている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者がテーブル席やソファ等、ご自分の居場所を自然な形で作り、また都度仲の良いご入居者が会話等をする時は席を譲って隣同士になれるようご入居者の方々に配慮している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真や持ち物等を居室に置いて、少しでも変わりなく、その人らしく穏やかな暮らしが出来るように居室作りを支援している。	使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、写真等)を持ち込み、本人にとって居心地の良い居室空間が演出されている。また、各居室には洗面台は設置され衛生的である。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人一人の状態を把握し、安全で自立した生活が送れるように、福祉用具等その方に合った環境作りに努めている。		